

憎まれ口調の区長を やらせていただく

昨年は地区の区長（町内会長）を自分の意志でやることになった。理由の一つに、将来必ずやらされるのだからサツサと無駄なことは済ました方が良くと言う話だ。

その区長の仕事に選挙の立会人と言う、ただ12時間座っているだけの仕事があり、町役場の方たちも数名いた。そのうちの1人がいつもの左翼発言をしていた。

「大規模農業はだめだ！」
「遣伝子組み換え反対！」

高卒のコネで役場に入った者であれば無視するが、一流大学卒で女性にオオモテの色男がこのような発言をするのだから、今回新町長になり**明るい農村**を目指す地元には必要な人材なのだろう。

中でも、一番がっかりした発言に「農家には国際交流は必要ない！」というものがあつた。

まっ、確かに金髪ブルーアイのおねくちゃんとの交流は本当に必要があるかどうかはわからない。しかし、本音は「おれたち公務員は金があつても暇はないんだ、農家ごときがチヨロチヨロして海外に行くくな！交流活動は行政に任しておけ」と言いたかつたのだらう。

彼は「個人的にも遣伝子組み換え作物は反対だ！」と発言できる、将来有望な地方公務員ではあるが、できれば死ぬまでそう言い続けていたいただきたい。

新年の顔合わせにはいろいろな行政の関係者が集まつた。

現在は国土交通省の一部局になつていますが、北海道開発局なる北海道の国道、一級河川、農家が3%負担する基盤整備事業を管理監督する役所がある。

その集まりで、若いあんちゃん開発局係長が「千歳川の堤防強化を行なつていきますので、200mm/日ぐらいの雨量では洪水にならない！」と、自信たつぷりに発言した。

彼はまだ30歳ぐらいの年齢なので、30年前に起きた「56水害」のことを知らないで発言したのである。知識が武器になり防具となる、とはよく言うが、まったく知らないことも時には武器になるものだ。

最近本州で起きている水害に比べればたいしたことはない。それでも、昭和56年8月3日に降り出した雨が

Vol.9 明るい農村に生まれて生きて



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遣伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

2日間で300mmもの雨量となり、6市町村で2万ha、2600戸が浸水してしまつた過去がある。その後、2年に1度の割合で軽い水害が起きている。

そのあんちゃん係長発言の時に、町の災害担当者の顔には「このバカ、黙れ！」と書いてある様に見えた。

北海道洞爺湖サミットが終了した夏には、この

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

北海道開発局の幹部が談合で逮捕された事件があった。以前から官製談合は当たり前で、誰でも知っていることではあるが、建前は存在しないことになっていた。

農業土木の仕事も減り、天下り先の仕事を確保できない理由探しをしていた矢先にこの逮捕、それも地元警察を飛び越し、札幌地検が直接指揮を執ったようだ。あれだけ大げさに行なえば、「すみませんね」、仕事ないんですよ」と建設業者には仕事がない言い訳ができるし、北海道の一部局をイジメて、次はお前の部屋をつぶすよと、しつかりとした脅しにはなる。たぶん沖繩が次のターゲットだな。あゝこわ。

閑話休題。その水害の水が流れる1級河川の南6号川を広げる期成会の総会に出席した。長年、会長をされていたU氏が、ガンになりその後完治したが、ご本人は会長職を辞めると発言したが、M氏（私ではない）がみんなの前で死ぬまでやってくれとびっくり要望を出した。「ほ、ほんまかいな?」と思ったが、民主主義の原則である過半数の了解を得る前に、ご本人が「会長職を引き続きやります」と発言され再選されることになった。本当にこわい話である。実はこの脅し上手のM氏は地元テレビにはよく登場する、人気農家

でもある。消費者の味方であっても、生産者の味方ではないようだ。

なぜ自腹を切らなごうか?

区長の集まりの話で、行政区の合併もあった。1万2000名の町民は6000名の農村地区と6000名の市街地から構成され、農村地区は31の行政区に分かれている。住民の多くはジジとババのみ、もう二度とないと思っていた区長などの役を30年ぶりにやらされたりと、非効率なことが多くあった。

他町との合併話も将来あるので、3地区が一つになるのはいかがかと提案してみた。当初は「なるほど」と聞いていたが、私が「これで私も隣の地区の農地を買い取るようになりますね」と発言したら、他の区長は「合併反対!」と言いやがった。

つまり、現在は31行政区のそれぞれの中で農地の売買が行なわれるのが基本だが、それが3地区合併して3倍の農地面積になれば、私の農地購入チャンスも3倍になることを善としたいのだろう。まったくナニと大脳の小さい人たちがばかりだ。

その他として区の予算管理の仕事があったが、これまた非効率な仕事だった。

収入と支出は毎年ほぼ同額なのに

何時間も話し合いをする：くらいは許せるが、支出の多くの相手先は役場であったりする。

それであれば、年の初めにまとめて支払いをさせてくれと役場にお願いしたが、担当する課がそれぞれ違うので難しいと言われた。

たった1万2000人の町でこのような非効率なことを半世紀以上続けていることに、誰も文句を言わない住民の精神状況はいかがなものかと思いたくなる。まして道、県単位ではどれほどの無駄な経費が使われているのであろうか。

住民自治も結構なことだが、そのような余裕が存在すること自体に日本の危機感が感じられない。他人様の食の安全・安心を築く前に、自分の危機感を磨いた方が将来の子供たちのためになるのではないだろうか。

道路の信号新設の要望書と言うのもあった。

私は10年ほど前に5月の連休時期やお盆で裏道として利用されている道の交差点に自費でSTOPサイン2セットを敷設して、警察から小言を言われたことがあり、「(本物の)止まれサインではありませんよ」と反論した後、本物の公安認定の「止まれサイン」が敷設されたことがある。そんなに信号が安全に必要な

なものであれば、皆さんの自宅前に付けてはいかがですか? 署名を求めた人にと問い返してみた。

みんな黙っていたが早い話、自分は金を出さないで行政に金を出させようとするイヤシイ根性のようだ。そんな貧乏根性でマトモな子供が育つと思っているのだろうか。そういえば、そんなこと言うのはみんな独身だったかな?

このコラムを書きだして数カ月が過ぎたころ、北海道上富良野で毎年行なわれる「土を考える会」で、昆編集長と会った。

お褒めのお言葉でも掛けていただけるのかな? と思ったが、「あなたのでせいで北海道の読者が減った」と言われたのである。ついでに「あんなやつのコラムを載せるんだっからみんなに買うなって言ってる」とまで、購読者から言われたそうだ。

そりやまずいですね。連載止めてもいいですよと言ったが、なぜかニタニタしていた。何かおかしいなと思ったが、やはりその後があった。

編集長は「減るには減ったが販売はそれ以上に増えた」と言った。

でも、誰が購読を止めたのか知らない方がいいよと言われたので、それ以上は聞かなかった。もしかして地元だろうか? 本当に喜ばしい話である。本物のヒール誕生だ!